

一日の旅が和歌山へ

ドウアンピラー プッタワン (システム工学部 4回生 ラオス)

私は和歌山に一日の旅でどこでも行けるとしたら、様々なところに行きたい。では、私の和歌山への一日旅の計画を紹介しよう。

まず、午前中、和歌山市内にある徳川御三家、紀伊の国、和歌山城（左の図）へ行く。和



歌山城の元々は、豊臣秀吉の命を受け、弟秀長が築城したのが始まり、そのあと秀長の家臣の桑山氏が3万石で在城し、続いて関ヶ原の戦いで功をたてた浅野幸長が入り、そして徳川家康の第10子四頼宣が城主となり、それぞれ改築拡張工事を行っていた。

山頂に上ると本丸御殿跡と天守郭がある。本丸御殿跡は、現在水道局の給水場になっており、立入禁止である。天守郭は、大天守・小天守・御台所・乾櫓・二の門、それを多門櫓でつなぐ要塞のような連立式天守である。天守閣の中の資料館は、葵の紋だらけであった。長持・陣太鼓・瓦・・・天守閣の上からは、紀ノ川から海が見えていい気分だと思う。雄大な眺め、「地球は丸い」も実感できる。門のところに行くと、搦め手門が見える。また、「岡口門」とそれに続く「土堀」である。これは、江戸時代の現存である。堀の内側の「雁木」もよく残っている。

その後、私は和歌山城を出て熊野古道（左の図）に向かう。世界遺産の熊野古道は、伊



勢と熊野速玉大社（くまのはやたまたいしゃ）を結ぶ伊勢路、大阪から和歌山を経て熊野に至る紀伊路は田辺で熊野本宮に向かう中辺路（なかへち）と、そのまま紀伊半島を海岸線沿いに那智へ向かう大辺路（おおへち）、高野山から熊野本宮へ向かう小辺路（こへち）、吉野から熊野本宮へ向かう奥駈道（おくがけみち）とも呼ばれる大峯道などのいくつ

かのルートがある。今日のルートは「観音道・大吹峠コース」で歩いてみる。参道の両脇には整然と高くそびえる杉や檜、そこからの木漏れ日がとてもきれい。猪を落としたと言われる長い大観猪垣道も見ることができる。清水寺に着く手前、振り向くと暗く苔むした古道から熊野灘がキラキラ見える。一度道路に降りて今度は大吹峠の登り口へ行く。そこで、桧や杉などが多い熊野で珍しく竹林の広がる道であり、若竹の透けるような黄緑が目には鮮やかで、爽やかな気分させてくれる。今回は1つのコースしか歩いていないが、これを機会に他の熊野古道も歩いてみよう。

次に私は昼飯として黒潮の恵みたっぷり新鮮なお造りを食べる。この料理はその昔勇猛



果敢で知られる熊野水軍が好んで食したといわれる熊野山海の食材を、現代風にアレンジしたオリジナル料理が味わえる。お造りには、マグロ、鯛、イカ、ワラサ、トンボシビがならび、漁れた海の幸などが味わうことができる(左の図)。

他に有田市からの有田みかんを食べる。和歌山県はみかんの産地として全国に知られているが、有田市では農業と言えば、温州みかん栽（右の図）である。温州みかん（早生みかん、普通みかん）、夏みかん、はっさく、ネーブル、いよかん、清見オレンジなど、時季に応じておいしく食べていただける柑橘がたくさんある。



昼食の済んだ後、午後から私は和歌山のシンボルで白浜の円月島（左の図）へ見に行く。正式には「高島」といい、臨海浦の南海上に浮かぶ南北130m、東西35m、高さ25mの小島ですが、島の中央に円月形（円形）の海蝕洞がぽっかり開いていることから「円月島」と呼ばれ親しまれている。円月島に沈む夕陽は「和歌山県の夕日100選」に選ばれており、日の沈む夕景の美しさは格別で、夏は6時30分頃であり、冬は4時30分頃である。5月1日前後及び8月11日前後には、夕日が円月島と四双島灯台と一直線に並んだ夕景を見ることができるようである。円月島を見に行った後、私は世界遺産の高野山

へ行く。高野山は、紀州「紀の川」の南方、海拔約900 mの山上にあり、東西6 km、南北3 kmの周囲を八葉蓮華になぞられた峰々に囲まれた。まず、高野山の大門を訪れる。これは高野山の総門であり、正門である。建物の高さが25.1m有り晴れた日には遠く淡路島が展望できる。



次、大門から奥の院に向かう。奥の院（左の図）は大師信仰の



中心霊域であり、弘法大師入定留身の御廟所をはじめ、燈籠堂・記念燈籠堂・御供所・不動堂・御廟の橋・納骨堂・経堂・水かけ地蔵等が有り、有名な玉川の清流が参拝者の心を浄めてくれる。そのほか、高野山には伽藍（二大聖地）、根本大塔（真言密教の象徴）、金堂（お大師様が講堂）、大師教会（高野山の宗教活動の中心の場所）などがある。

高野山から出た後、晩御飯でクエ鍋（右の図）を食べる。クエは、成長すると体長1メートル、体重20kgを超えるという巨大魚である。九州では「アラ」、関東では「モロコ」と呼ばれている。その獰猛な顔つきからは想像もできない上品な味の白身は、脂が良くのっているのに決してしつこくなく、“一度食ったら、ほかの魚はクエン”と言われるほど絶品である。また、漬物として私は南高梅を食べる。南高梅（右の図）とは、梅の品種のひとつであり、主たる生産地が和歌山県の白梅で、果樹王国紀州和歌山のブランド梅であるだけでなく、梅のトップブランドとしてその名は知



られている。果実は非常に大きく、種は果実のわりに小さめであり、果肉が厚くて柔らかいのが特徴である。おもに梅干しや梅酒に加工される。

以上、私の一日旅の計画を紹介したが、和歌山にはまだまだ紹介しきれないほど良いところがたくさんある。皆さんが和歌山を訪れる機会があったら、海、山、川などの風光明媚のような和歌山の美しさをぜひ実感してください。